

じゃがいものうち通信 NO. 45 2005.12.2

～ 障害者と共に歩む仲間たち～

NPO法人「じゃがいものうち」

〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間136-6

Tel.Fax/0997-47-3588 E-mail/npo-jaga@po.minc.ne.jp

URL:http://www.minc.ne.jp/npo-jaga 代表 松田 正

屋久島型の障害者福祉の姿とは？

屋久島に、最も適した障害者福祉の姿とはどんなものだろうと模索を続けています。(楯さんが代表をつとめている「屋久町手をつなぐ育成会」を中心に、作業所につながるようにと週一回の活動が始まっています。)

授産施設なのか、作業所なのか、デイサービスなのか？

年齢も障害の程度も大きく違い、しかも地理的な距離もある。

既存の制度では満たせない要件があって事業を始めることが出来ない。そんな中、注目されているのが『小規模多機能』ではないだろうか。もともとは、かつて勤めていた人が、その施設で理想とする介護に限界を感じ、介護を必要としている人の望む形を作っていた結果たどり着いた形態です。最初、富山で始まったところから『富山型』とも呼ばれています。具体的なモデルは14年前に福岡で始まった『宅老所』。当初はスタッフ三人と老人二人が、お寺の茶室を借りてスタートしました。現在の正確な数は分かりませんが、ポストの数ほど作ろうというのが合い言葉になっています。

『小規模多機能』の基本事業はデイサービス事業ですが、家族程度の小規模なもので、必要に応じて宿泊できたり住んだり出来る、多機能なことからそう呼ばれています。特に富山では構造改革特区として、介護保険法の施設を従来の身体障害者に加え、知的障害者や障害児(18歳未満)も利用可能にしています。(今年の介護保険法改革で、来年4月から利用不可になるおそれがでていますが。)現在、特区は10市2町に広がり、計約40施設で実施されています。

ここ屋久島でも、このように大きな家族のように暮らせる形が理想的じゃないかと思います。高齢のため一人暮らしが不安になってきた人、障害があってサポートが必要な人、通う人がいたり、住む人がいたり、またそこから畑に出かけて仕事をしたり・・・、もちろん個人負担も必要になるとは思いますが、それぞれの生き方を認め合い助け合える、大きな可能性を秘めた姿だと思います。

皆さんの希望や知恵を是非お寄せください。そこから新しい一歩が始まります。

(松田)

『障害者自立支援法』について(2)

改革の名のもと、今いろいろな改革(悪)が進められています。今年5月には介護保険の大きな改正があり、利用者負担の見直しや、予防重視型への転換が行われ、この10月から食費や宿泊費等(いわゆるホテルコスト)が、利用者負担になりました。

10月31日成立した『障害者自立支援法』も、44号にも書きましたがいろんな問題があり、一番は『応益負担』。「受けた利益に応じて負担しろ」と言われれば、一見当たり前のようですが、障害故に自力で入浴できない人が、入浴サービスを利用したとすると、利益を受けたのだから費用を負担しろと言うのです。当然ながら、障害が重いほど受けるサービスも多くなり負担も大きくなります。これらは『利益』ではなく、障害を持った人も持たない人も、同じ時代を対等に生きていくために、無償で行うべき『社会保障』ではないでしょうか。しかも本人に負担できないなら、家族に負担を求めているのです。これでは、障害者は自立どころか肩身の狭い生き方を強要されているとしか思えない。

そのおおもとは、民法にある扶養義務(直系血族及び兄弟姉妹は、互に扶養する義務がある。-中略-三親等内の親族間においても扶養の義務を負わせることができる。-後略-)。明治に作られた前近代的な法律がまだ生きていて、『個人』と言う考えより、『一族』と言う気風の残る、因習におんぶした、自立を阻害する悪法だと思います。

(松田)

ケアマネ研修会に参加

11月17日、屋久島地区介護保険連絡協議会の研修会に、「じゃがいものうち」からも5名参加させていただきました。テーマは「認知症の人のためのケアマネジメント」と「対人援助技術」でした。今後も機会あるごとに研修等に参加し、スキルアップに努めたいと思います。

(松田)

日中の活動の場を求めて

屋久島で暮らす障害者のほとんどは、親や兄弟の保護のもと、毎日を家庭内で過ごしております。週に1～2日を社協や他の事業所にデイサ・ビスに行く以外は、家庭内だけで1日を過ごすというのが現状です。外で働く場も、活動する場もありません。平成15年に、知的障害者の更正施設を作ろうという動きがあり、その時、多くの親たちは、期待に胸をふくらませました。しかし、国の情勢も福祉の法律も転換期にあり、大きな施設は作ることが出来ない、という時代へとなってしまいました。そこで、通所の授産施設であれば設立の可能性があるのでは、という事から動きはその施設の設立申請へ向け切り替えられました。

ところが、その申請すら不採択となり、知的障害者を持つ親や兄弟たちは、がっくりとかたを落としました。もし、自分たちの身体に何かあったとき、障害を持つ子どもは、種子島や鹿児島島の施設に入所させるしかなく、家族の離別を余儀なくされます。何か良い方法はないものかと、色々話し合いましたが、はっきりしたビジョンはみえてきません。しかし、

今、出来ること。例えば、家庭以外で1日を過ごせる活動の場を自分たち（障害を持つ子供の家族）が中心となり、立ち上げて行こうといった動きを今年から始めました。現在は週1日の作業ですが。作業内容は、小麦の栽培と製粉作業・それをういた製麺作業・木工・しいたけ・野菜・時計草等の栽培・別荘の草刈り等の管理・タンカンジュース作り・等々…。目や耳の不自由な人もこれらの作業をします。知的障害者にとっては一つ一つの作業に指導が必要となることもあります。そのため、効率が悪いことは仕方ありません。しかし、私たちと同様に一人の人間として、役に立ちたい、認められたいという心は、全く変わりません。いえ、私たち以上かもしれないかもしれません。全ての人々が平等に安心して暮らすことの出来る島作りを実現するには、まだまだ、長い取り組みが必要です。多くの方のご理解もご協力もご支援も必要となりますので、どうぞ、宜しくお願い致します。彼らの笑顔が屋久島全体で喜びあえるような活動へと、導いてくれるような、そんな気がするのです。（楯 篤雄）

じゃがいも植え付け作業、安房小学校と交流

11月7日に安房小6年生の36名と校長先生、木原先生が、総合学習の時間を使い障害者とのふれあいと、労働を通して子供達に福祉を学んでもらおう、ということで、じゃがいもの植え付けに来てくれました。手をつなぐ育成会の仲間達もたくさん来てくれて、これまでにない和やかな交流ができました。その子供たちの感想と「じゃがいものおうち」の仲間の感想をお読み下さい。

「じゃがいものおうち」の皆様へ

安房小学校校長 日高 松行先生
「じゃがいものおうち」の皆様、朝夕はだいぶ冷えてきましたが、お元気でお過ごしでしょうか。

11月7日(月)は、本校6年生がジャガイモの植え付けと一緒にさせていただき誠にありがとうございました。私も小・中学校の頃、カラスの鳴く畑で母親と一緒にジャガイモの植え付けをしたことを思い出しながら、皆様と楽しく作業をさせていただきとてもうれしかったです。お礼のお手紙も遅くなり誠に申し訳ございません。近くを通るたびに、皆様はどうしておられるかな、ジャガイモは芽を出してくれたかなと思いつつ車を走らせております。

6年生の子どもたちは、皆様とのジャガイモの植え付け作業をとおして、協働で支え合いながら社会生活を営むことの大切さを肌で学ぶことができたことと思います。このふれあいで学んだ「共生」を子どもたちの生き方に生かしていけるような学校教育に努めたいと存じます。

これから寒くなりますが、皆様方がますます手を取り合って、心温かく日々楽しく過ごせますことと、ジャガイモが大きく成長し、たくさんの子供ができることをお祈りしております。

じゃがいも植え付けを終えて

安房小学校6年担任 木原裕子先生
子どもたちは、共に時間を共有する中でさまざまなことを感じてくれました。自己紹介の中で「障害」という言葉は使いたくないけれど……みんなより少しハードルが高いだけです。といわれました。だからこそ、すこしお手伝いをしてください。

初めは何をどのようにしていいかわからなかった子どもたちもだんだん慣れてきて作業も早くなり共に話をし、笑いあっていました。今まで体が不自由だと困るだろうな。と考えていた子どもたちが、帰るときは心の自由さに気が付き明るい笑顔に包まれていることに感動していました。どの子も「楽しかった。」と書いていました。収穫にはぜひ行きたいと書いていました。力を合わせることで、すごい力になることを知りました。共に生きるとは助け合っているということなのだと感じた1日でした。



じゃがいも植え

(塩木 隼人)

午前9時20分に学校を出発しました。バスの中でいろいろ話していたら着きました。いそいでリュックをシートに下ろして軍手を取りました。

まず最初にキャリアを4つならべてその上に板を置きました。その後は軽トラックの後ろのじゃがいもをとって板の上におきました。じゃがいもの大きいのは4等分小さいのは2等分で切りました。そのときぼくと紀元君は、包丁がなくて困りました。そして、しばらく待つと包丁が二人分あったのでもらいました。僕たちは作業が少し遅れました。袋が終わりしました。あまり疲れません。2袋目はまだ力がありました。3袋目でだるくなってきました。僕たちは4袋目で休けいしました。のどがすごくからからでした。急いでお茶を飲みました。でも、「うわあ、苦い。」と小さい声で言いました。でも、しかたがないので飲みました。再び作業開始です。6袋でぼくたちは終わりました。終わったとき、「やっと飯だ。」といいました。中はえびとウインナーと肉とご飯ともやしいためでした。ご飯の後はじゃがいも植えです。僕は政吾とペアーを組みました。最初は普通にやっていたのですが後からいい方法を考えました。政吾がバケツで僕が棒です。僕は20cmある棒を2つ使ってどんどん印をつけていきました。先にやっていた人を追い越しました。早く終わったのでいろいろなところを手伝いました。

芋うえが終わったら、足で土をかぶせていきました。これは、苦手でした。

次は休憩です。タンカンジュースを飲みました。ぼくのいここは農業をしているのでタンカンジュースはよく飲みます。休憩が終わったら一番奥の畑の草取りをしました。でも、僕はあまりしませんでした。草の中にもぐって遊んでいました。大地とちっちゃい子もいました。草取りが終わった後は帰ります。その前にみんなで写真を撮りました。大至君が「じゃがいものおうち」のおばちゃんに、「あんた女ね〜。」といわれていました。そして、いよいよ帰ります。みんなと手をふりました。そして、今日の総合学習は終わりです。



じゃがいも植え

(本田大陸)

2時間目から5時間目まで「じゃがいものおうち」の人たちとジャガイモ植えをした。バスを降り、道を歩いて畑に行くと「障害」をもった人やサポートをしている人たちが笑顔で迎えてくれた。「こんにちは。」といいながらちょっと思った。「障害」を持った人は、見られるのが嫌だったり、何か言われたり、変な顔で見られたりしないだろうか。と思わないのかな。と考えていた。じゃがいもの切り方が終わったら自己紹介をしてくれた。「障害」を持つ人は笑顔であいさつしていく。障害を気にしていないような感じだった。一人目が見えない人がいた。その人はよく歌う人だった。みんな仲良くなっていた。「障害」を持っている人たちは「みんな障害をもっているでも楽しく元気に生きていけるんだぞ。」と言っているような笑顔だった。ジャガイモ植えもみんなで作ったので早くすんだ。よかったな。と思った。



「じゃがいものおうち」へ行ったよ

(中村政吾)

9時20分、学校を出発して、すぐ着きました。それからジャガイモの種を目がちゃんと切ったやつにあるか確かめながら切っていました。目、足、手などが不自由な人がいらっしやいました。最初は恥ずかしかったけど、いつときしたらもういっぱいおしゃべりしていました。休憩のときにのぶ君が水戸黄門を歌ってくれました。とってもうまかったです。最後にジャガイモを植えて、足で上手に土をかぶせていきました。

帰るとき6年生で「ビリーブ」を歌ってお礼を言ってバスに乗りました。「じゃがいものおうち」の人たちはバスに乗っているぼくたちが見えなくなるまで手を振ってくれました。早く収穫がこないかなーと思います。

じゃがいもの植付け作業 (高見澤信裕)

僕が畑についた時にはもう6年生たちがバーっと来ていたのでビックリしました。種芋切りの時に、さいしょは流れ作業で6年生が種芋を2等分に切り、僕はそれを4等分に切りました。それから弁当の時、校長先生といろんな話をしました。僕達がしている作業のことを聞かれたので、みんなで麦を製粉したり木工でコースターを作ったり畑仕事の事を話しました。

6年生がたくさん来てくれたので作業があまりにも早くビックリして感動しました。一緒に作業をして僕達の事を理解してくれたのでうれしかった、「またやろうね」といいました。お別れするのがさびしかったから、県道のところまで見送りに行きました。また来てねー、さようならー、と言えてよかった。



子持ちギャルの《ひとこま見聞録》

鹿島 浩二君の日記より 【11月16日(水) 今日、朝の9時から、中野の畑で草ぬきをしました。このあいだました人参の芽が少しだけ出ていました。みんなで端から端まできれいに草をぬいていきました。今日は、いい天気で本当によかったです。10時の休憩の時、ちかちゃん、きよみちゃん、のぶ君、のぶ君のお父さん、ちがちゃん、楯さん、ゆうこさん、僕、いっしょうけんめい草引きをした後、みんなで飲んだつめたいジュースは、特においしかったです。今日は、ちかちゃんが僕にいろいろな話をしてくれました。ちかちゃんは、僕の氏名を忘れないで、しっかりと覚えているので、またいちだんと楽しいです。手をつないだりしました。それに、今日、僕は、ちかちゃんをおんぶしました。すごく重たかった。でも、また友達がふえて、うれしいです。昼は楯さんの家で、お弁当を食べました。】

実は、「手をつなぐ育成会」と「じゃがいものおうち」の有志で、『梅千代プロジェクト』が、進行中である。現在、屋久島には、ハンディ-を持った

人たちが働いたり、作業をしたりする場がありません。そこで、もう待っちゃいけないと言う彼らと、やっちゃえ！やっちゃえ！で立ち上げたのが、『梅千代プロジェクト』です。「作業所がほしい。」「地産地消のレストランを作りたい。」という夢に向かって、麦を育て粉を挽きうどんを作ったり、野菜を作ったり、別荘の草刈りをしたりして、小銭を稼いで貯金をしています。彼らは、おしゃべりやカラオケが大好き！でも、働くのも大好き!! 毎週水曜日を作業の日と決めているのですが、どんなに、その水曜日を彼らは楽しみにしているのか! 「集って何かをしたい」「みんなの役に立ちたい」すなわち、「社会に出て、一歩でも自立に近づきたい」と思うのは、人間、誰でも同じなのです。そんな思いに少しぐらいお手伝いしたってイイじゃないですか!と、言うわけで、この『梅千代プロジェクト』に賛同して下さる方、毎週水曜日、楯さん宅でお待ちしております けっこう楽しいよ!

(鈴木裕子)

屋久町文化祭<11月6日> 福祉文化祭<11月18日>に参加しました (日高冬子)

「じゃがいものおうち・手をつなぐ育成会」で二つの文化祭舞台発表に出演しました。

内容は「水戸黄門」の劇と手話歌。

先ず11月6日の屋久町文化祭に向けて練習。参加メンバーの中で手話歌指導を川東さん、歌の振り付け指導を大原さんをお願いして何度も繰り返し、覚えること・みんなで動きを合わせること・大きく表現することなどを練習しました。そして劇の練習・・・これがすごかった。当初、コントや喜劇のつもりはなかったのにこんなに笑えていいのか?!とみんなで大笑い。まず劇の初め、「りえ子姫」とばあやが「きゃー、助けてーっ」と走って逃げるシーンですが、「りえ子姫」は逃げるどころかニコニコ嬉しそうに追っ手を待ち構える様子。そして追いついた悪者に対しあっさり「私、結婚するー」とあっさり結婚を快諾。さらには悪者達の不敵な笑いにおびえるはずが、姫と一緒に(むしろ悪者以上に)高笑い。「小笠原ご老公」一行と悪者との立ち回りでは、力と気持ちあふれる「のぶくん格さん」に本当にやっつけられる「楯悪代官」。印籠をやたらに振りかざし悪のりする「鈴木助さん」・・・といった個性派劇団。そしていざ当日。劇は・・・過去一番の出来でした。11月18日の福祉文化祭は配役の変更などがありましたが、「浩二ご老公様」も存在感たっぷり役をこなし、観客皆さんの大きな笑いや拍手を頂きました。そのドタバタ(?)劇の後の手話歌は出演者皆さんとても伸び伸び堂々と手と身体を動かしておられました。後で聞くと会場の方でも一緒に手話歌に挑戦されたお客さんが多かったとのことでした。二つの文化祭に楽しんで参加でき、それが地域へのアピールや交流のきっかけとなれば嬉しいですね。



文化祭（水戸黄門）（手話担当 川東和宏）

11月16日屋久町文化祭に障害者が集まって水戸黄門（手話歌）をやりました。その前に練習をくりかえしみると障害者の皆はとっても一生懸命頑張っていました。少しずつ成長して覚えていくんですね。手話指導をして、良かったと思います。そして本番に参加して失敗なく成功したそうで良かったとおもいました。お客さんと一緒に手話歌をやったと聞いた時に「おーっ、やってくれたんだな！」とうれしく思いました。

今後、私は「手話劇」が出来たらいいと考えています。一緒にやってみたいネ。



さつまいもの収穫

11月20日と23日にさつまいもの収穫をしました。今年は試験栽培と言うことで植え付けましたが、あの夏の暑さの中、「草取りをお願い」の声をかけられずに、旺盛な草に飲み込まれてしまいました。それでも時々出てくる大きな芋に大きな歓声が上がっていました。労の割には少ない収穫でしたが、おいしい芋に育ちました。「じゃがいものおうち」で販売していますのでご利用ください。なお宮之浦のふるさと市場でも販売しています。「じゃがいものおうち」での価格は下記の通りです。

紅乙女・・・200円/kg・・・総量約250kg 安納紅・・・300円/kg・・・総量約50kg

以下の行事が行われました

- 6月12日（日）じゃが千恵【粘土遊び】
- 7月3日（日）じゃが千恵【官足棒を作る】
- 8月6日（日）尾之間温泉祭【出店】
- 8月20/21日（土/日）キャンプ【粟生】
- 9月23日（金）長峰大祭【出店】

じゃがいもの植え付け、さつまいも掘り、文化祭の出場などお忙しいところ本当にご苦労様でした。

「じゃがいものおうち」喫茶部より

地域の人とふれあえる場をと5年前に「じゃがいものおうち」の喫茶部がオープンしました。その時から喫茶部を担当していた松本裕子さんとは体調がすぐれず喫茶部を去ることとなりました。そして、夏から新人2人を加え現在は、松本活栄さん、畑下和子さん、日高冬子さん3人体制で喫茶部を運営しています。まだまだ不慣れですがよろしくお祈いします。

これからの催し物のご案内

（カレンダーに赤丸印を付けてご参加下さい）

- 12月4日（日）今回は手打ちうどんに挑戦です。昨年12月に種まきをして5月に収穫した正真正銘の尾之間産のうどん用の小麦です。島内産うどんの販売を目的に、製品化し日中活動の作業になる事を目指します。
場所・時間 9時集合
持ち物 どんぶり、はし、エプロン、三角巾又はスカーフ 会費 100円
- 12月18日（日）手話教室・茶話会
場所・時間 中央公民館1F（和室） 2時～4時
- 12月22日（木）しゃくなげ未来館によるクリスマス会
「じゃがいものおうち」より3名出席予定
- 12月11日（日）ケ・キ作り（講師：後藤田）12月9日まで拠点又は松田まで連絡を
- 12月28日（水）餅つき大会（手をつなぐ育成会との交流会）
場所・時間 保健センター 9時集合（昼食はつきたての餅）
持ち物 エプロン、三角巾又はスカーフ、食器（箸、茶碗、コップ当）
餅米2～3^{kg}（前日洗い、一晩水につけ、当日ザルにあげ水を切る）
- 1月4日（水）新春茶話会
場所・時間 「じゃがいものおうち」 10時集合
持ち物 一品持ち寄り



鹿島 浩二君から皆さんへお手紙です。

「じゃがいものうち」や楯さんの所の仕事（梅千代プロジェクト）を一度として嫌だと思ったことはありません。疲れることもいっぱいあるのに、みんなの笑顔と楽しい話し声を聞くと疲れがどこかに飛んでいく。そんな思いで過ごせることが、本当にありがたいなあと、感謝の気持ちでいっぱいになります。今度僕は、うどんを上手にこねられるように、がんばります。それから、楯さんがやってる仕事をよく見ておぼえるよう、がんばります。これからは、皆さんといっしょに、あせ水流しながら仕事をして、たくさんお金を貯金して、みんなが働く職場が出来るように、がんばって作業して、よい商品をつくって、お客さんが買ってくれる物をたくさん作っていくのが僕らの仕事です。人にたよらないで、自分からしてゆくのも大事。畑仕事も、かんたんなものではないです。こやしをやりすぎると、せっかく植えたものが、だめになるし、水のやりすぎもだめ。人がやっているのをよく見て、ああ、こうしてするんだなあと、頭にたたきこんでおくのも大事だと思います。まだまだこれからは、勉強をすることがいっぱいあります。がんばっていきたいと思いますので、またよろしくをお願いします。

地域通貨「屋久の水」

今年、4月に発足した地域通貨「屋久の水」もすでに8ヶ月が過ぎてます。スタッフ会議などでじゃがいものうちさんには、日頃からお世話になり心から感謝しております。

今までの活動としては、フリーマーケット、楽健法マッサージの講習会、刃物研ぎの講習会、エンデの遺言ビデオ上映、パソコン教室など、イベントを実施し、新たな、知識や技術の習得と人と人との交流を図ってきました。会員間での「屋久の水」の流通も、少しずつではありますが、浸透してきていると感じております。『現在のお金では、買えないもの大歓迎。困ったときに助けて。こんな事始めて見たい、チャレンジしたい、教えて欲しい。いらなくなったので誰か使って。一人じゃむり誰か手伝って』こんな時は、「屋久の水」の出番です。まだまだ、使い道については、隠されていると思います。

今回、「じゃがいものうち」さん、杉の茶屋さんの参加が決まり、お店で「屋久の水」が使えるようになりました。もっと便利に、もっと有効に、宝の持ち腐れにならないよう今後も「屋久の水」を循環させ、人と人との輪づくりを築いていきたいと思

っています。地域通貨「屋久の水」に、参加してみたいという方、気軽にお問い合わせください。

(川上雄治)

問い合わせ先・屋久町平内319-131

TEL 0997-47-3359 携帯 09089414963

「屋久の水」専用メールアドレス

yakunomizu@kaiyuu.net

「屋久の水」によるパソコン教室

じゃがいものうち」で地域通貨のボランティア活動をしてる人とパソコン教室を始めました。

先生は松田さんで、初めはちんぷんかんぷんで分かりませんでした。が、「タグを使ったホームページ制作(1)(2)」「タグを使ったHP制作講座、スタイルシート(CSS)(3)」「タグを使ったHP制作講座画像の挿入(4)(5)」と会を重ねるごとにだんだん分かってきました。今自分のHPを作っています。そのうち公開します。

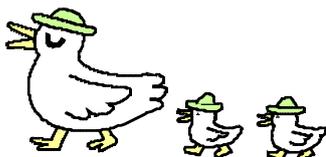


(永網敏文)

「じゃがいものうち」では暫定的に喫茶部での飲み物と委託以外の再利用品に『水』が利用できます。

新会員紹介 ~皆さんよろしくネ

日高冬子さん(小島) 和歌山県出身
福嶋禮子さん(賛助会員) 東京都在住



感謝録

笹川昭子、青木、千葉美由樹、高見沢義男、星野光子、星万里子、柴堯子、井上直胤、永江、大久保芙美子、泉や俱樂部、太田、山本厚子、水野洋子、羽田順子、日高弘子、峰平和加子、松本活栄、佐藤まち子
ありがとうございました。(順不同 継承略)

編集後記

44号発行してから早6ヶ月が過ぎました。いい訳はいたしません、すみませんでした。「じゃがいものうち」本来の活動に重点をおき、動き続けたこの半年。なんとなく重たい動輪がググッと動き出したような気がします。通信の役割として普段活動に直接参加出来ない会員さんにも同じ意識であってほしい、というのが原点。これからも発信します。ピーーン!と来たらよろしくね!

校正係長が帰ってきて、助かりました。

(楯篤雄)